

たまのよこやま



●くろがね物語

●保存科学室こぼれ話

●遺跡だより

●広報・普及事業のご案内

くろがね物語 一参

古代の農具 <下>

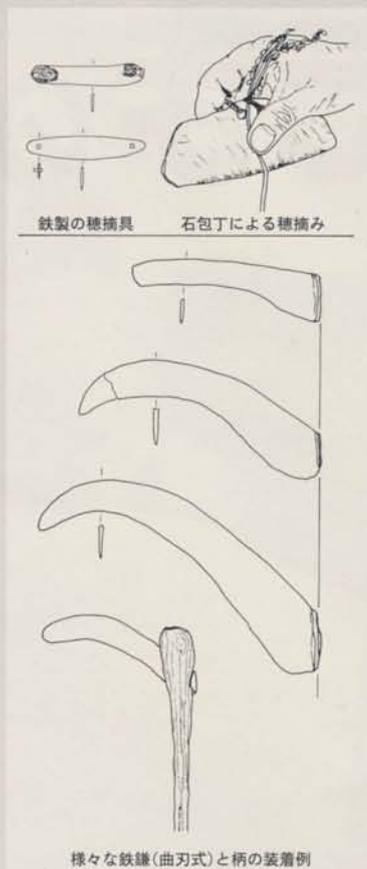
今回は、農作物を収穫するための2種類の農具について、説明します。

一つは穂摘具です。弥生時代、稲や雑穀の穂刈りに使用されたのが石包丁と呼ばれる石器で、上端の2ヶ所の孔に「ひも」を通して手に固定させます。一部に木製や貝製のものもありますが、古墳時代以降は主に鉄製に変わり、形態も短冊形や半月形になります。やはり、刃の両端に孔があり柄に挟み込んで使用されたと思われます。

二つ目は、弥生後期から登場する根刈り用とされる鉄鎌です。形は現代の草刈り鎌によく似ています。鎌には刃が真っ直ぐなもの、と、曲がるタイプのものがあり、古い段階の鎌は直刃です。刃の基部を片側に折り曲げ、木製の柄に装着しています。刃の曲がりや、柄との装着角度に様々なものがみられることから、同じ鉄鎌でもその機能や用途に多少の違いがあったと想像されます。

多摩丘陵の古代の竪穴建物跡からも、しばしば穂摘具や数種類の鉄鎌が検出されることから、これらの道具が畑作物の収穫や山仕事にも使用されたことが分かります。また、平安時代には鉄製農具の出土率が大幅に増えますが、これは山林や原野の開拓がいっそう活発化したためと考えられます。

(松崎元樹主任調査研究員)



様々な鉄鎌(曲刃式)と柄の装着例

保存科学室こぼれ話 (24)

再び赤色顔料のベンガラについて

今回は、平成16年3月に報告された板橋区坂下三丁目遺跡から出土した古墳時代前期の赤色彩色土器の分析例を紹介します。

この板橋区を含めた荒川水系の地域から出土する弥生時代から古墳時代の赤色彩色土器は、肉眼観察でも他地域より赤色が鮮やかな彩色土器として知られています。

分析試料は、祭祀遺構に伴って出土した古墳時代前期の赤色に彩色された高坏と甕類の土師器5点です。これらの試料を走査型電子顕微鏡(20KV、1500倍)とエネルギー分散装置(ELAP:200)で分析をすると、同じ試料の中で鉄分が高く出る場所と低い場所が共存していることが判明しました。そのため、再度細かく分析を繰り返すと、鉄分の高い場所には5点とも共通して図1~3の結晶構造をした物質が含まれることが判明しました。

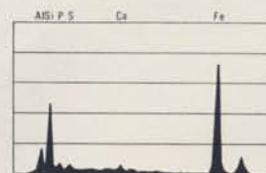
今まで赤色顔料(ベンガラ)の母材については、①パイプ状物質、②沼地の褐鉄鉱、③板状の褐鉄鉱の3種類を中心に述べてきています。しかし、今後は②の沼地の褐鉄鉱の種類に、新たに鉄分の高い結晶構造の物質を含む地域を追加する必要ができました。

なお、鮮やかな赤色になる原因の一つは、これらの物質が多く含まれているためと考えられます。

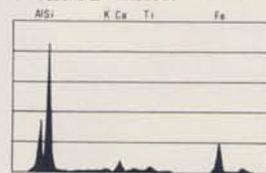
(上條朝宏主任調査研究員)



1~3 新しい結晶構造の物質(×1500)



4 物質周辺のX線分析スペクトル



5 物質周辺外のX線分析スペクトル

遺跡だより ⑥7

〈八王子市 No.58・472・473 遺跡〉

八王子市No.58・472・473遺跡は、八王子北部を東西に延びる加住丘陵の中央付近に位置し、丘陵中央部を流れる谷地川に面した標高120~140mの丘陵北斜面に立地しています。

谷地川対岸の丘陵上には国指定史跡の滝山城趾が存在し、それ以外にも周辺には縄文時代から中世に至るまでの多くの遺跡が分布しています。

今回の調査は、東京都建設局による（仮称）新滝山街道整備事業に伴う調査として、当該道路予定地にかかる3つの遺跡を平成15年11月から調査しています。調査範囲は道路用地幅に限られますが、それでも幅約40m、長さ約600mにわたる広大な面積が調査対象となっています。

これまでのところ、No.58遺跡からは古墳時代後期の竪穴式住居跡や中世と思われる積石遺構などが検出されていますが、近世以降の攪乱が著しく、遺構の遺存状態は良好ではありません。

No.472遺跡は、地形的に二段に分かれています。下段は狭い平坦面で、主に中世の遺構が集中して検出されています。多数の切りあった柱穴や土坑、石組の井戸などが確認され、15世紀末から16世紀初頭にかけての国産（瀬戸・美濃や常滑産など）の陶器や、中国から輸入された青磁、渡来銭などが出土しています。

上段は、下段とは10mほどの比高差があり、わずかに北側に傾斜しています。下段の中世遺構群と隣接しているにも関わらず、ここからは主に縄文時代の土坑（狩猟用の陥し穴）や集石が検出されるのみで、中世の遺構はほとんど確認されていません。

さて、今回の調査対象地である加住丘陵には多くの遺跡が存在していることから、地域住民の中でも郷土史に関心を持っている方が多く、それらの方や加住地域の歴史を学んでいる地元の小・中学校からの要望により、遺跡の現地説明会を開催しました。特に、小・中学生には総合学習の一環として簡単な講義をあわせて行い、大変好評を得ました。

（西山博章調査研究員）



中世の遺構群



石組の井戸



積み石遺構



小学生の遺跡見学

編集だより

5月8・9日に一般の方を対象に縄文土器作り教室を、本物の縄文土器をモデルとして行いました。5月29日（土）に野焼きを行い、皆さん割れることなく無事完成しました。また、6月26日（土）に今年度からの新規事業「もようをつくろう」・「拓本教室」を行いました。考古学を学ぶ上で、基礎となる知識と作業です。多くの参加者に体験いただき、作成した縄文原体や拓本等の成果品を持ち帰られました。



本号から表紙や各ページの体裁を変えました。これからも、読みやすく、内容を豊かにと心掛けていきます。次号は特別展「汐留紀行」の特集号を予定しています。ご期待下さい。

平成16年度 広報・普及事業のご案内

行事名	対象	日	時	備考
文化財講演会	一般 120名	①7/14(水) ②9/11(土) ③10/13(水) ④12/18(土) ⑤1/29(土) ⑥2/23(水)	14:00~16:00	無料
夏休み考古学相談室	小・中学生	8/23(月)~8/27(金)	10:00~16:00	無料
発掘調査発表会	一般 120名	9/25(土)	13:00~16:30	往復はがきで申込み 締切り:9/14(火) 参加費 無料
汐留遺跡特別展 「汐留紀行 一大名屋敷 から大衆の駅へ」	参加自由	10/29(金) ~11/3(祝)	9:30~17:00	無料
文化財講座	一般 120名	①11/10(水) ②11/17(水) ③11/24(水)	14:00~16:00	無料
展示説明会	参加自由	①12/11(土) ②2/19(土)	10:00~11:00 13:30~14:30	午前午後 同内容 無料
映画鑑賞会	午前:小・中学生 午後:一般 各120名	1/15(土)	10:00~12:00 13:30~16:00	無料
縄文土器作り教室	①②各 親子:20組	制作①8/19(木) ②8/20(金) 野焼き ①②合同 9/18(土)	9:30~16:00	往復はがきで申込み ①②共 締切り:8/10(火) 参加費 700円
もようをつくろう —土器模様原体作り教室—	一般:15名 親子:15組	10/16(土)	10:00~12:00	往復はがきで申込み 締切り:10/5(火) 参加費 300円
拓本教室	一般:20名 親子:15組	10/16(土)	13:30~16:00	往復はがきで申込み 締切り:10/5(火) 参加費 500円
貝輪作り教室	一般:10名 親子:15組	11/27(土)	10:00~12:00	往復はがきで申込み 締切り:11/16(火) 参加費 300円
編布(あんぎん)作り教室	一般:10名 親子:15組	11/27(土)	13:30~16:00	往復はがきで申込み 締切り:11/16(火) 参加費 300円

表紙背景写真解説 — 港区東新橋一丁目汐留遺跡の石垣 遺跡の場所は、旧国鉄汐留貨物駅跡地にありました。現在は「汐留シオサイト」として高層ビル群が林立しています。江戸時代の大名屋敷や明治時代の鉄道関連施設等が見つかっており、龍野藩脇坂家江戸屋敷と仙台藩伊達家江戸屋敷の間からは、堀も見つかっています。この堀は石垣で造られており、長さ約300メートル、幅3.8メートルの規模があります。写真は、龍野藩側の石垣ですが、真鶴産の安山岩が多く使われているようです。(西澤 明主任調査研究員)

1 — 千代田区外神田四丁目遺跡のごみ穴 遺跡は秋葉原駅前に位置します。江戸時代前期~幕末・明治の武家屋敷や町人の長屋、墓地为厚い地層の中から姿を現しました。ご覧の写真は旗本屋敷のごみ穴出土品の一部、下駄・柄杓・鍬・羽子板・漆椀・杓子・筥・櫛・木札・箸など木製品、箒・縄など繊維製品、ガン類やニワトリなど鳥の骨、アンコウやカツオの骨、アカガイ・カキの貝、コメ、モモなど種子合計156点です。この他陶磁器の碗や皿、瓦、砥石、泥人形、煙管、碁石、鍋弦、釘、布袋、火打石、焼け焦げた建築材などがあります。この穴は17世紀後半頃、火事場のごみを全部穴に埋めたと考えられます。

(及川 良彦主任調査研究員 撮影 岸 俊太郎)



発行 平成16年7月13日 (財)東京都生涯学習文化財団 東京都埋蔵文化財センター
〒206-0033 多摩市落合一丁目14-2 TEL 042-374-8044 <http://www.tef.or.jp/maibun/>

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています。